

科目名	臨床心理基礎実習 D [院]					単位	2.0
担当教員	目黒 達哉・柴田 和子						
授業形態	実技・実習	開講期間	通年	配当年次	1, 2	授業番号	2687

●授業のテーマ

臨床心理士としての心理臨床実践基礎力の修得

●到達目標

1年前期では、臨床心理査定技法や臨床心理面接技法の基本的な技能や技術を実践的に身につけることができる。

1年後期では、心理臨床センターで、独立してケースを担当できるようになる。

●学習内容(授業概要)

臨床心理基礎実習は90時間の実習を次のような内容で進められる。

<1年前期>

4月から6月までは、学内でロールプレイを実施し、臨床心理面接技法の基本を身につけることができる。また、ケース記録の記載の方法を知ることができる。さらに実習のオリエンテーションを実施し、実習施設の概要を知ることができる。

6月、7月は、児童養護施設、精神科クリニック、高等学校に学外実習施設に見学実習に半日を2回もしくは1日を体験し、各実習施設の現状を理解することができる。また、この時期から実際にケースを担当する専任教員に陪席し、臨床心理技法、臨床心理面接技法を学ぶことができる。

<1年後期>

心理臨床センターで独立してケースを担当することができる。また、前期に出かけた学外実習施設から2施設を選択し、各施設の対象者にあつた臨床心理検査技法や臨床心理面接技法を身につけることができる。

学年末の実習報告会を実施するのでその成果をまとめることができる。

●学習内容(授業計画)

<前期>

1. オリエンテーション
2. カウンセリングの基本
3. ロールプレイ
4. 記録の記載方法
5. 見学実習、陪席面接のガイダンス
6. 見学実習(児童養護施設)①
7. 見学実習(児童養護施設)②
8. 見学実習(精神科クリニック)①
9. 見学実習(精神科クリニック)②
10. 見学実習(高等学校)①
11. 見学実習(高等学校)②

<後期>

12. 基礎実習：2施設選択
13. 基礎実習：2施設選択
14. 基礎実習：2施設選択
15. まとめ

※この他、陪席面接を適宜実施する。また、後期からは心理臨床センターにおいて独立してケースを担当する。なお、火曜日6限、7限に実習報告、事例検討会、スーパーバイズを実施する。

●準備学習・事後学習の内容

準備学習：次回の授業で実施する箇所を文献、資料などで研究する。実習施設の概要を調べる。

事後学習：講義形式の授業の場合は、その内容をレポート用紙などにまとめる。実習の場合は実習記録を記載する。

●成績評価方法・基準

実習記録の内容（50%）実習指導者の評価（50%）

●テキスト（必携）

テキストは使用しない。実習日誌、資料を配布する。

●参考文献／その他

適宜紹介する。

●履修上の注意

臨床心理士養成の根幹をなす取り組みであるため、学生の皆さんの積極的な参加を望む。欠席は許されません。